

**名前** \_\_\_\_\_

基本メニュー（☆☆☆）…必ずやりましょう。

	チェック
① 週テストの復習用を解く	
② 授業用テキストを読み直す 太字になっている部分は書いて覚えるとよい。	
③ 宿題用テキストの基本問題A・基本問題B・復習問題を解く	

応用メニュー（☆☆）…基本メニューが全て終わって、余裕があればやりましょう。

	チェック
① 宿題用テキストの練習問題Aを解く	

発展メニュー（☆）…チャレンジしたい人はやりましょう。

	チェック
① 宿題用テキストの練習問題Bを解く	

担当より一言

今回は、動物とヒトのからだその3について学習しました。

今回のメインは血液の循環についてです。呼吸についても一部取り扱いました。

呼吸については、肺胞というつくりがもっとも重要です。なぜ肺胞というつくりがあるのかについては記述できるようにしましょう。あわせて、表面積を広げるはたらきをしている他のつくり(根毛、柔突起)についても思い出しておくとういすね。

心臓の各部分や各血管の名前はただ丸暗記するのではなく、名前の付け方からわかるようになりましょう。心臓から出ていく血液が通る血管は動脈、心臓に戻っていく血液が通る血管は静脈となります。心臓から肺に出ていくなら肺動脈という風に、各臓器の名称にちなんだ名称がつけられますのですべて覚えなくてすむようになります。

血管の中を流れている血液にも名前の付け方があります。酸素が多ければ動脈血、酸素が少なければ静脈血です。血管の名前と、血液の名前の付け方は異なりますので、別々に考えるようにしましょう。

また、最も酸素が多い血液や最も不要物の少ない血液が流れているのがどの血管か、なども丸暗記ではありません。からだのどの器官がどんなはたらきをしているのか、その器官を通ったあと血液に含まれているものはどうなるのか、血液の流れに沿って考えるようにしてください。すべてを暗記しようとするのか、その場で考えられるようになるのかによってこの単元は非常に差がつきます。正しい学習方法でのぞみましょう。そこさえ理解できてしまえば、それ以外に覚える項目はそれほど多くありません。

覚えることが多く見える単元ですが、上手に学習をすすめていきましょう。